

登録コード	UAA28500	開講年度	2026				
授業題目	歴史学実践演習Ⅰ					担当教員	塩原 佳典
						副担当	山本 英二
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・5時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				⇔	日本史研究に必要な知識と技能を獲得し、歴史学的な思考ができるようになる。	
(2)授業の概要	史学概論・歴史学の方法論について、受講生の関心にも即しつつ、幅広い視野から問題を取りあげていく。歴史を学ぶことと共に、どのように歴史を伝えるか（教えるか）にも目を配り、歴史学（主として日本史学）という学問がどのように社会と関連するのかを考察していく。 具体的にはすぐれた歴史書を史学史の観点からとりあげ、その方法論や社会的な位置について自らの学問・研究と関わらせながら批判的に検討していく。報告は受講生の分担とし、報告のあり方が成績評価の対象となる。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 歴史学とはどのような学問だろうか？一史学史という視点 第2回：古代・中世史の方法（1）一石母田正『中世的世界の形成』を読む 第3回：古代・中世史の方法（2）一東アジア史と日本前近代史 第4回：近世史の方法一深谷克己『百姓成立』を読む：民衆史の方法 第5回：近世・近代史の方法（2）一安丸良夫『出口なお』を読む：民衆史の方法 第6回：地域史の方法 第7回：琉球・沖縄史の問題意識と方法 第8回：北方史・アイヌ史の問題意識と方法 第9回：近現代史の方法（1）一遠山茂樹『明治維新』を読む：政治史と社会 第10回：近現代史の方法（2）一家永三郎『太平洋戦争』を読む：戦争史 第11回：同時代史の方法（1）一大門正克『オーラルヒストリーの歴史』を読む 第12回：同時代史の方法（2）一木畑洋一『20世紀の歴史』を読む 第13回：歴史教育論（1）一時代区分と教科書 第14回：歴史教育論（2）世界史と日本史 第15回：女性史／ジェンダー史の方法と発想 定期試験 なし ※担当は適宜指示する。						
(4)成績評価の方法	授業中の討論を通じて理解度を測り（20％）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（20％）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20％）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20％）、理解し組み上がっているか（20％）を総合的に判断する。						
(5)成績評価の基準	理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。 客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていれば「その水準にある」と評価する。 論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	テキストの自主的な読み込みが必要。担当箇所は分けず、全て目を通した状態での授業への参加を求める。						
(7)履修上の注意	各自の専門とする時代・地域・分野と比較して意見を構築することが望ましい。 なお、購読する文献は履修者との相談によりより適切なものを選ぶ場合がある。						
(8)質問,相談への対応	メールなどで連絡の上、アポイントメントをとること。						
【教科書】	授業中に指示・配布する。						
【参考書】	遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010年 福井憲彦『歴史学入門』岩波書店、2006年 家永三郎『新日本史』三省堂・高等学校日本史教科書						